# A大学看護学科卒業生のリカレント教育に対するニーズ調査


| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-03-31<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En): nursing college, graduates, recurrent education<br>作成者: 尾﨑, 雅子, 藤原, 桜, 中村, 由果理, OZAKI, Masako, FUJIWARA, Sakura, NAKAMURA, Yukari<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://doi.org/10.20608/00001207 |

神戸常盤大学紀要　Vol.16, pp.136－146, 2023

報告

# A大学看護学科卒業生のリカレント教育に対するニーズ調査

尾﨑　雅子[1)]　藤原　桜[1)]　中村　由果理[1)]

# Survey on needs for recurrent education of A university nursing graduates

Masako OZAKI[1)], Sakura FUJIWARA[1)], and Yukari NAKAMURA[1)]

## 要旨

人生100年時代を迎え、生涯にわたり知識やスキルを自主的に学び続けることが不可欠となっている。そこでリカレント教育が注目されている。A大学看護学科でも卒業生を対象とする看護専門職のリカレント教育を検討している。本研究の目的は卒業生の動向とリカレント教育へのニーズ調査を実施し、大学のリカレント教育システムの構築の手がかりを得ることである。2001年に開設した短期大学から現在までの看護学科全卒業生1,310人を対象に、リカレント教育に対するニーズ調査を実施した。その結果、212人（20.8%）の回答を得ることができた。学習ニーズは多岐にわたっていたが、学びやすい環境を整えること、卒業生個々の今までの活動を大学に還元できるような仕組みを作っていくこと、母校ならではの“親近感”を感じてもらうことなど、リカレント教育のあり方について示唆を得ることができた。

キーワード：看護系大学、卒業生、リカレント教育

## Abstract

Entering the era of 100 years of lifelong voluntary learning of knowledge and skills has become essential, and recurrent education has gained attention. Recurrent education of nursing graduate professionals has been considered in the Department of Nursing at A University.

This research is aimed to investigate the trends and needs for recurrent education among graduates, and construct a recurrent educational system at the university. A survey on the need for recurrent education was conducted for all 1310 nursing graduates from 2001 to the present, with a response rate of 20.8% (212). The results indicate wide-ranging need for learning.

1）保健科学部看護学科

Suggestions regarding the ideal of recurrent education were obtained, such as creating an environment conducive to learning, creating a system for individual graduates to return their activities to the university, and feeling an affinity unique to their graduate school.

Key words: nursing college, graduates, recurrent education

## はじめに

わが国は、人々の価値観の多様化、科学技術の高度化、少子高齢化に伴う労働人口の減少など、それらに対応すべく、個人の生き方にも変化が見られている。人生100年時代を迎え、人生において働く期間が長くなり、学校教育で学んできた知識やスキルだけでは不十分となってきた。そのため生涯現役という意識に基づき、働き方や学び方が変化し、自律的にキャリアを選択し、生涯にわたり知識やスキルを自主的に学び続けることが不可欠となっている。そこで社会人の学び直しのニーズが高まり、リカレント教育が注目されている。リカレント教育とは「生涯学習を発展した概念であり、職業能力向上に資する高度な知識やスキルなどを生涯にわたって、繰り返し学習すること」[1]である。Organization for Economic Co-operation and Development（経済開発協力機構：以下OECD）の調査[2]によると大学等の教育機関（大学、大学院、短期大学、高等専門学校）でリカレント教育を受ける人の割合がわが国は2.4％（OECD平均11％）とOECD諸国で比較すると低くなっており、大学の果たす役割は十分だと言えない。また少子化などを背景に大学にとっては社会人のリカレント教育に期待が高まる。

看護職は国家資格を有し、専門職として社会に対する責任を果たすことが期待される。『看護職の倫理綱領』本文8には「看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める」[3]とある。つまり、一定レベルの看護の質保証はもちろんのこと、最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を果たすために自己研鑽を積んでいくことが求められる。また看護職個人の能力やライフサイクルに応じたキャリアをデザインして、自らの目標を達成させるような能力の向上に取り組むことも必要となる[4]。このように看護職が生涯にわたり学び続けるためには、個人の努力だけでなくそれを支援するためのリカレント教育システムの構築が欠かせない。

A大学は地域に根ざした大学として地域貢献を特色に掲げ、看護学科では地域で暮らす人々の健康支援に取り組んできた。今後は卒業生をはじめとする看護専門職のリカレント教育にも力を注ぎたいと考えている。リカレント教育を効果的に機能させるためには学習者である社会人が「学びたい、学んでよかった」と思えるシステムの構築が重要である。看護学科は2001年に短期大学として発足し、2008年に4年制大学となった。教育理念は「“いのち”に対する豊かな感性と知性・幅広い人間性、的確な看護判断、実践のための基礎的能力を養い、現代のヘルスニーズに応じ得る資質の高い看護専門職業人の育成」であり、それを修めた卒業生は、短期大学では497人、大学では813人の総勢1,310人となる。短期大学の1期生は卒業後15年が経過し、中堅クラスとなって活躍していると思われる。そして、卒業生の中には知識やスキルの見直しや自身のキャリアデザインの中で新たなステップを模索しているものなど様々な学習ニーズが予想される。看護系大学が急速に発展する中で、自校の卒業生の動向を把握し、社会人となった彼らの支援を行うために調査研究が行われ、報告されている[5)~10)]。一方、大学が実施するリカ

レント教育については、様々に実施されているものの、研究報告されているものはまだ少ない。

そこで本研究では、A 大学看護学科卒業生の動向を知り、リカレント教育に対する卒業生のニーズを把握することにより、看護学科リカレント教育システムの構築の手がかりとしたい。そして、リカレント教育の実施が卒業生のみならず地域の看護職の質向上に寄与できることを期待したい。

## 研究目的

A大学看護学科卒業生の動向とリカレント教育へのニーズ調査を実施し、大学のリカレント教育システムの構築の手がかりを得る。

## 研究方法

**1. 研究デザイン**：量的記述的研究デザイン　実態調査

**2. 対象者**：A 大学看護学科（短期大学 2003 ～ 2009 年度、および大学 2011 ～ 2020 年度卒業生）全卒業生 1,310 人

**3. データ収集**

Google フォームを使用した Web 上での質問紙調査。作成した質問紙フォームの専用 URL、QR コードと重複回答を避けるため任意設定した ID を送付。協力者には送付された ID を入力し回答してもらった。データ収集期間は 2021 年 11 月から 2022 年 1 月。

リカレント教育については協力者に同じ概念をもってもらえるように、依頼文に次の定義を示した。リカレント教育とは「生涯学習を発展した概念であり、職業能力向上に資する行動な知識やスキルなどを生涯にわたって、繰り返し学習すること」である。

質問内容は以下の通り。

1）基本属性：性別、年齢、卒業年（卒業期）、現在の職業、勤務場所、現在の勤務年数

2）キャリアの状況：卒業後に取得した免許・資格、進学の有無と進学した分野、進学などの将来展望

3）学習ニーズ：学習ニーズの有無、学びたい内容、学習に際し困難なこと、リカレント教育への関心の有無、訪問看護への関心の有無、リカレント教育を本学で実施する場合に望むこと。

**4. データ分析**

各データの記述統計による分析を行った。また、学習したい内容や大学でのリカレント教育に望む内容など自由記述の項目については、類似する内容をまとめて分類し、特徴を示す名称を付けた。

**5. 倫理的配慮**

研究協力の依頼をする卒業生の連絡先（個人宛）は大学同窓会に同意を得て提供を受けた。卒業生に目的・方法・倫理的配慮など協力依頼を送付し、参加は個人の自由意思であり強制されないこと、質問への回答（送信）をもって研究への参加の同意を得たこととすること、回答後でも同意撤回が可能であることを説明した。回答は無記名で実施し、回答回収期間後は Web 上でアクセスできないよう設定した。論文等の公表の際にも匿名性を遵守し、卒業生の連絡先や回収したデータは本研究の目的のみに使用し、USB メモリや紙媒体などのデータ類は鍵付きの保管場所で管理する。研究成果の発表後、10 年間保管し、その後 USB メモリはデータを消去し、紙媒体のデータは復元できない状態にして破棄する。協力者への対価はないこと等を説明した。また本研究における利益相反はない。

本研究は神戸常盤大学研究倫理委員会の承認を得ている（承認番号 21-7 号）。

## 結果

短期大学 1 期生から大学 10 期生までの全卒業生のうち、宛先不明を除いた 1017 件に依頼文を郵送し、212 人より回答を得ることができた（回収率 20.8％）。内訳は短期大学が 55 人（25.9％）、大

表１　卒業期別の回答した人数とその割合　（n＝212）

| 短期大学 | | 大　学 | |
|---|---|---|---|
| 卒業期（卒業年） | 人数（割合） | 卒業期（卒業年） | 人数（割合） |
| 1 期生（2003 年度） | 13 人（6.1%） | 1 期生（2011 年度） | 11 人（5.2%） |
| 2 期生（2004 年度） | 7 人　（3.3%） | 2 期生（2012 年度） | 14 人（6.6%） |
| 3 期生（2005 年度） | 12 人（5.7%） | 3 期生（2013 年度） | 17 人（8.0%） |
| 4 期生（2006 年度） | 4 人　（1.9%） | 4 期生（2014 年度） | 30 人（14.2%） |
| 5 期生（2007 年度） | 9 人　（4.2%） | 5 期生（2015 年度） | 15 人（7.1%） |
| 6 期生（2008 年度） | 3 人　（1.4%） | 6 期生（2016 年度） | 22 人（10.4%） |
| 7 期生（2009 年度） | 7 人　（3.3%） | 7 期生（2017 年度） | 16 人（7.5%） |
| | | 8 期生（2018 年度） | 12 人（5.7%） |
| | | 9 期生（2019 年度） | 12 人（5.7%） |
| | | 10 期生(2020 年度) | 7 人　（3.3%） |
| 合計 | 55 人（25.9%） | 合計 | 157 人（74.1%） |

学 157 人（74.1%）であり、短期大学から大学までの各期で回答が得られた。（表 1）なお、自由記述については類似する内容をまとめ【　】内に示し、その具体の一例を「　」に示した。

現在の職業は「看護師」が 166 人（78.3%）と最も多く、次いで「保健師」18 人（8.5%）、「養護教諭」12 人（5.7%）であった。他には助産師、臓器移植コーディネーター、事務・会社員、保育士などがあり、90.1%が現在働いていると回答した。勤務場所は「病院」が 67%と最も多く、次いで「診療所」、「福祉施設」、「学校」、「訪問看護ステーション」であった。現在の勤務年数は 3 年以内が最も多く 91 人（47.6%）、4 ～ 6 年以内 53 人（27.7%）、7 ～ 9 年以内 27 人（14.1%）、10 年～ 12 年以内 7 人（3.7%）、13 年以上は 13 人（6.8%）であった。

卒業後に取得した免許・資格は「ない」と回答したものが全体の 172 人（81.1%）であった。それに対して 40 人（18.9%）が何らかの免許・資格を取得していた。複数回答で求めた内訳は、多いものから「保健師」15 人、「養護教諭」9 人、「助産師」3 人であり、専門看護師、認定看護師も各 2 人ずついた。他には公認心理士、保育士、学会等の認定資格である糖尿病療養指導士、呼吸療法認定士など様々であった。（表 2）

進学については「したことがある」14 人（6.6%）、「したことがない」198 人（93.4%）であった。また、将来展望として「進学を考えている」は 27 人（12.7%）であった。「した」と回答したものに対して時期を尋ねたところ、「3 年以内」が 50%、「4 ～ 6 年以内」28.6%、「10 ～ 12 年以内」14.3%であり、進学した分野は卒業後取得した免許・資格に関連していた。また「進学を考えている」27 人の現在の勤務年数は 3 年以内が 8 人、4 ～ 6 年以内が 8 人、7 ～ 9 年以内 4 人、13 年以上が 2 人、現在働いていない者が 5 人であった。

現在の看護についての学習ニーズについて、学びたい「はい」131 人（61.8%）、「いいえ」81 人（38.2%）であった。「はい」の回答者に内容を自由記述で尋ねたところ、123 件の回答があった。記述された内容は多岐にわたり、【看護ケア・疾患・診

療に関する知識、技術】、【救急・急性期看護】、【在宅・訪問看護】、【がん・緩和ケア】、【小児・母性看護】、【精神看護】、【資格取得に関連すること】、【地域看護・災害看護】、【看護教育・看護管理】、【その他】に分類された。記述が多かったのは【看護ケア・疾患・診療に関する知識、技術】で、「糖尿病、心不全」など疾患に関すること、「呼吸療法、腹部マッサージ、皮膚排泄ケア、看護技術」など看護ケアに関すること、「呼吸器・心電図、透析」、「職場で使う知識」などもあった。【救急・急性期看護】では「救急看護、急変時の対応」の記述が目立った。【在宅・訪問看護】では「訪問・在宅」だけでなく、「退院支援・継続看護・アドヒアランス」や「社会保障・サービス」などがあった。【がん・緩和ケア】では「看取り、グリーフケア」もあった。【資格取得に関連すること】では、「専門・

**表２　卒業後に取得した免許・資格と取得者数　（n＝212）**

| 取得の有無 | 取得した免許・資格と人数 |
|---|---|
| 「なし」 | 172 人（81.1%） |
| 「あり」 | 40 人（18.9%）<br>【取得した免許・資格（複数回答あり）】<br>保健師（15 人）、養護教諭（9 人）、助産師（3 人）<br>専門看護師（2 人）、認定看護師（2 人）<br>糖尿病療養指導士（3 人）<br>Advanced Cardiovascular Life Support（二次救命措置 ACLS プロバイダー：ACLS）（1 人）<br>第一種衛生管理者（2 人）<br>公認心理士（1 人）<br>保育士（ 1 人）<br>思春期保健相談士（1 人）、児童発達支援管理責任者（1 人）<br>介護支援専門員（2 人）<br>終末期ケア専門士（1 人）<br>滅菌技師（ 1 人）<br>3 学会合同呼吸療法認定士（2 人）、心電図検定 2 級（1 人）<br>医療事務（1 人）<br>Neonatal Cardiopulmonary Resuscitation（新生児蘇生法：NCPR）（2 人）<br>保健師助産師看護師臨地実習指導者講習会（ 1 人）<br>Genomics and Medical Research Coordinator（ゲノムメディカルリサーチコーディネーター：GMRC）（ 1 人）<br>（＊取得した免許・資格の問に対し記述されたもの） |

認定看護師、特定行為に係る看護師」や学会認定の資格取得に関連した記述であった。【看護教育・看護管理】では「新人教育」の記述があった。【その他】には「研究方法」、「ゲノム医療」、「倫理、看護観」、「クリニック勤務なので学べる環境があれば」などであった。(表3)

学習ニーズを満たそうと思うときの困難さ（複数回答）について、「忙しい・時間がない」が全体の74.9％、「費用がかかる」58％、「情報がない」22.9%、「職場の研修制度が不十分」16.8％、「遠方である」15.3%、「学習したい内容を教えてくれない」14.5％、「家族の理解が得られない」3.1％であった。

リカレント教育への関心は「はい」96人(45.3%)、「いいえ」116人（54.7％）であった。また全員に大学でリカレント教育を行うとしたら何を望むか

**表３　卒業生の看護についての学習ニーズ**

| カテゴリー | 主な記述内容 |
|---|---|
| 看護ケア・疾患・診療に関する知識、技術 | 職場で使う知識、今後関わっていく診療科に関する知識<br>看護技術、基本的な医療的ケア<br>心不全、糖尿病、疾患に伴う看護、感染対策<br>睡眠障害児や発達障害児の看護<br>呼吸療法、腹部マッサージ、皮膚排泄ケア<br>透析、呼吸器・心電図、リハビリテーション |
| 救急・急性期看護 | 救急看護、救急医療、急変時の対応、<br>Basic Life Support(一次救命措置：BLS)<br>Immediate Cardiac Life Support(二次救命措置：ICLS)<br>集中治療看護、重症救急看護、<br>手術看護（例：患者の侵襲を最小にする最新の手術、安全な手術室環境、患者に安心をもたらす看護師の関わり方） |
| 在宅・訪問看護 | 在宅看護、訪問看護、在宅医療<br>訪問看護の専門性とステーション運営、経営学<br>退院調整・指導、外来における継続看護<br>退院支援に必要な制度とサービス |
| がん・緩和ケア | がん看護、緩和ケア、看取り、ターミナルケア<br>グリーフケア |
| 小児・母性看護 | 小児看護、子どもの発達、子どもの精神<br>小児の訪問看護、子育て支援<br>助産、周産期看護、産科領域・新生児領域<br>家族看護 |
| 精神看護 | 精神看護、メンタルヘルス、認知症<br>心理、交流分析について |
| 資格取得に関連すること | 保健師、認定看護師、専門看護師<br>不妊看護認定看護師、新生児集中ケア認定看護師<br>母性看護専門看護師<br>臨床経験を積んだのち認定看護師を目指したい<br>特定行為に係る看護師、心不全療養指導士 |
| 地域看護・災害看護 | 地域看護、予防医療、学校保健、地域住民の社会参加<br>災害看護 |
| 看護教育・看護管理 | 看護教育、新人教育<br>看護管理 |
| その他 | 研究方法、倫理、他人の看護観<br>ゲノム医療、専門領域以外の基礎的知識の振り返り<br>クリニック勤務で情報が一定量しかない。学べる環境がほしい |

を自由記述で尋ねたところ、80件の記述があり、【仕事に活かせる内容】、【基礎からの復習】、【最新・専門的な内容】、【研究・症例検討】、【キャリア支援】、【学びやすい環境】、【学生との交流】、【学生時代を振り返る】に分類された。【仕事に活かせる内容】では「臨床で使える、実用的」などの言葉や「集中治療、急変時の対応、認知症、緩和ケア、訪問看護、予防医療」など各看護学の内容が記述された。また【基礎からの復習】でも「看護学全般、基礎から応用、大学での座学の復習」などであり、「働き方が変わったりブランクがあると、自分の学びたい方向がわからなくなるので基本的なことから」の意見もあった。【最新・専門的な内容】では「認定・専門看護師からのレクチャー、最新の知識や動向」など、【研究・症例検討】では「看護研究や事例検討」であった。【キャリア支援】で

**表４　本学のリカレント教育へ望むこと**

| カテゴリー | 主な記述内容 |
|---|---|
| 仕事に活かせる内容 | ・より具体的な、病院や施設、疾患に沿った看護<br>・自分の仕事に役立つ学習<br>・今の時代に必要な内容、感染症、災害時について<br>・臨床で必要となる解剖生理、周手術期看護、モニター管理<br>・褥瘡予防、褥瘡処置<br>・認知症患者との関わり方、老人看護、精神看護<br>・急変時の対応、心電図、気管挿管などの救急看護<br>・緩和ケア、グリーフケア<br>・在宅・訪問看護 |
| 基礎からの復習 | ・看護学全般のスキルアップ<br>・大学で学んでいた座学を復習したい<br>・働き方が変わったり、ブランクがあると、自分の学びたい方向性や課題が分からなくなるので、基本的なことから。 |
| 最新・専門的な内容 | ・認定看護師・専門看護師からのレクチャー<br>・新しく変わった看護技術のエビデンス<br>・訪問看護師の話を聴く座談会 |
| 研究・症例検討 | ・症例検討など事例を検討する場<br>・症例発表の際の文章表現、研究テーマの絞り方 |
| キャリア支援 | ・認定看護師・専門看護師の資格取得に向けた支援<br>・産休育休など長期休暇から復帰しやすいように、必要な知識や技術を再修得できるような内容 |
| 学びやすい環境 | ・遠方なのでオンラインでの研修<br>・働きながら勉強しやすい環境や教材<br>・様々なコースがあり選択できる<br>・短期・単発での研修が参加しやすい<br>・卒業してもまた学習しに帰れるような環境作り<br>・図書館の利用<br>・大学院があれば専門看護師を目指したい。卒業校以外に進学する気がないが、常盤にあればチャレンジしたい。 |
| 学生との交流 | ・学生と卒業生が授業等を通じて意見交換したりすることで、互いに学ぶことができる。病院と連携して出張の範囲で大学に来れるような取り組みがあればよい。<br>・卒業生の先輩方と話す機会 |
| 学生時代を振り返る | ・各実習後の振り返り、今後の課題、自身の傾向など、考える機会を増やしてほしい。<br>・臨地実習を通して、根拠を考えられる学習と看護にやりがいと興味を持てる学習を。 |

は「新たな資格取得に向けた支援」や「産休育休などの長期休暇からの復帰しやすくなるような支援」などもあった。【学びやすい環境】では「リモート、オンライン」や「選択肢の準備」など遠方でも、働きながらでも学べる環境を求めた意見であった。【学生との交流】では「学生と一緒に講義を受ける、交流の機会を増やす」などであった。【学生時代を振り返る】では現在の自分ではなく大学時代を振り返っての意見で「実習後の振り返り、包帯法を意外と使うのでもっとやっておきたかった」などがあった。(表4)

訪問看護への関心については「はい」が93人(43.9%)、「いいえ」が119人（56.1%）であった。また「はい」と回答した人を短期大学と大学で比較すると、短期大学は55人中29人（52.7%)、大学は157人中64人（40.8%）で、さらに現在訪問看護ステーションで勤務しているものは短期大学2名、大学4名であった。

最後に母校への要望については「卒業生を対象にした研修会や学習会の開催」や「働き方に対する情報交換」、「潜在看護師向けの看護技術」、「母校に大学院があれば学びたい」などがあった。一方「現在の活動を還元したい」、「在学生との交流」、「大学との共同研究」など、大学へ還元できることを考えた意見があった。また、「解剖生理を実習に活かせるよう」、「実習前に学内でケアに力を入れるべき」、「看護師として基本の心がぶれない教育を」、「医療職・社会人としての柔軟な精神力と向上心の育成を」、「事実を正確にとらえ仮説を立てる・論理的な思考過程と根拠ある看護をできるようにしていく必要がある」など、自らの学生時代の経験や現場から見た教育についての意見もあった。

## 考察

### A大学看護学科卒業生の動向

卒業生は90.1%が現在働いていると回答し、職業は「看護師」が最も多く、次いで「保健師」「養護教諭」であった。A大学看護学科は2008年4年制大学となって以降、看護師に加え保健師と養護教諭の養成課程をおいていたことから、卒業後取得した資格を活かして働いていた。また「助産師」「公認心理士」や「保育士」などの免許を取得したり、「専門看護師・認定看護師」をはじめ、学会等の認定資格を取得したり、講習会の受講をしたりなど、卒業時に取得した資格に複数の付加価値を付けて働いていることがわかった。

進学については14人（6.6%）と少なかった。進学となると現職と学業との両立や経済面など課題を解決する必要があるが、進学の時期が3年以内に50%であったことは、卒業時より準備してきた結果と考える。また将来進学を考えているものが27人（12.7%）いた。この中には現在の勤務年数や現職の有無など背景は様々であった。母校への要望の中に「母校に大学院があれば学びたい」という意見があった。A大学は大学院をもたないが、進学へつながるような支援ができればよいと考える。さらに現在の勤務年数3年以内が47.6%と約半数であったことからも卒業生は勤務先を変えたり、転職したりしていることがわかった。先行研究[11]で、職務遂行の中でキャリアへの考えについてインタビューした結果によると、看護職として「不安をもちながらこの先の道を模索」していたり、「看護職としてどのように貢献/活躍していきたいか」考えたり、「自分の人生における看護職の位置づけ、これからの生き方を考える」などがあった。大学1期生で卒業後10年になることから年齢的には結婚や出産など生活環境が変化する時期であり、経験年数を鑑みると次のキャリアを考える時期になる。卒業後の動向を見ると卒業生も自分に合った働き方や看護職としてのキャリア形成を模索していることがわかった。

### 卒業生の学習のニーズとリカレント教育

看護職におけるリカレント教育は、冒頭に示し

た定義から、一般的な生涯学習とは違い、看護職としての職業能力向上に資する高度な知識やスキルなどを生涯にわたって、繰り返し学んでいくことである。卒業生に看護についての学習ニーズについて意見を求めたところ、学びたい「はい」131人（61.8％）、「いいえ」81人（38.2％）であった。学びたい内容については現在の職場で必要とされる知識や技術であり、実践に活かせるような内容であった。また「研究」や「倫理」などの専門職として共通する内容や「ゲノム医療」など先端医療の内容、資格取得に向けた内容など、とても幅広いことが分かった。このように、卒業生の学習ニーズは現在の実践に直接関係することだけでなく、看護職として自らを高めていくためのものであった。しかし、実際に学習ニーズを満たそうと思うときの困難さについて、「忙しい・時間がない」が全体の74.9％であった。「忙しい・時間がない」以外にも、職場環境や地域性、家庭環境などが影響していると考えられる。「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師の働きかたビジョン検討会」の報告では、複雑な状況にある人が急増する中ではすべての看護師に高い能力が求められ、また夜勤業務等の負担感が大きく離職率に影響していることが示されている[12)]。このように看護職としての能力を向上する必要性を感じつつも、日々の業務に追われながら負担感が大きくなっているのが現状であろう。そのためリカレント教育の実施に向けては、これらを踏まえた上で卒業生の学習ニーズをどのように満たしていけるのかが課題である。

大学でのリカレント教育については関心がある人が全体の45.3％であった。母校に望むことについては学習ニーズと同様にやはり幅広い内容と、学びやすい環境を求める意見もあり、年ごとのテーマを設定したり、選択コースを設定したり、短期・単発の開催にしたりすることで学びやすくなると思われる。また開催方法についてはオンラインでの開催が時間的にも交通費などの経済面でも有効であるため取り入れる必要がある。これにより少しでも学習ニーズを満たすことの困難を緩和することにつながると考える。また、「学生との交流」や「大学での座学」、「学習しに帰る」などの意見からは大学という場の重要さを感じる。したがって、オンラインと対面を併用した取り組みが必要だと考える。一方、リカレント教育に関心がない人が54.7％であった。勤務先である施設が行う院内教育や職能団体が実施する研修会等により、必要性を感じていないかもしれない、しかし、「働き方が変わったり、ブランクがあると、自分の学びたい方向性や課題が分からなくなる」、「産休育休など長期休暇から復帰しやすいように、必要な知識や技術を再修得できるような内容を」といった職場を変わることや一旦職を離れてからの復帰などに直面している意見があった。個別の学習ニーズに応えるための情報収集や大学からの情報配信により再度学び始める機会になればよいと考える。

卒業生の学習ニーズは様々であったが、A大学ではリカレント教育の内容として在宅・訪問看護の分野に注目したいと考えている。昨今の医療体制の変化により在宅医療が推進され、看護基礎教育においても2022年からの看護師課程のカリキュラム改正において「地域・在宅」の充実が求められている。A大学の中・長期的な将来計画として地域で暮らす多様な人々の健康課題を支援している現職の訪問看護師やこれから目指そうとする人に向けた研修会なども検討していきたい。今回の質問項目に敢えて訪問看護への関心について尋ねたのもそのためである。結果は関心がある「はい」が93人（43.9％）、「いいえ」が119人（56.1％）で、「はい」が「いいえ」をやや下回った。現在の勤務先はほとんどが病院であり、入院から在宅への包括的な医療が行われる中、4割強の人が関心を持っていることは当然ともいえるが、現在、訪問看護ステーションで勤務している卒業生は短期大学2名、大学4名で、いずれも勤務年数は3年以内である。訪問看護は対象者の生活の場が看護活動の場になることから、状況に応じた看護実践

が施設以上に求められる。そのため、今までは卒業後すぐの進路として考えることは少なかったが、病院に併設する訪問看護ステーションも多く、今後は卒業後間もない時から訪問看護に従事することが考えられるので、取り上げていきたい内容である。

### Ａ大学のリカレント教育のあり方

卒業生の学習ニーズから、リカレント教育について検討してきたが、今回の調査では卒業生の大学に対する考えも知ることができた。少数の意見ではあるが「現在の活動を還元したい」、「大学との共同研究」など、自分たちが積み上げてきた力を大学へ還元したいと考えていることがわかった。また「在学生との交流」については看護職の先輩・後輩として交流することや、自らの学生時代の経験や現場の立場から、母校の教育に対する意見もあった。このような卒業生の活躍が今後の大学の大きな力になると期待できる。そこで、大学から一方向に学習の場を提供するのではなく、卒業生が自らの経験で培ってきた力を大学や学生に還元する機会を設けることが、卒業生にとって学習の機会になると考える。そして在学生にとっても先輩である卒業生と交流することは自分の将来像を描くためのモデルに出会う有意義な機会であると考える。このように大学・卒業生・在学生が協同し、お互いを刺激し高め合うような仕組みを創り、母校ならではの“親近感”を感じられる学びやすい環境を整える必要がある。

## おわりに

今回のような卒業生全員を対象とした調査は看護学科として初めてのことであり、今後の方向性を検討する際の貴重なデータとなった。またＡ大学としてのリカレント教育のあり方についても示唆を得ることができた。今後は実施に向けた検討をすすめていきたい。

## 謝辞

本調査に協力してくださった卒業生の皆様には深く感謝申し上げます。また故長尾厚子前学科長には本研究を進めるにあたり多大なるご指導をいただきました。誠にありがとうございました。感謝とご冥福をお祈り申し上げます。

## 文献

1）川口昭彦 , 江島夏実 . リカレント教育とその質保証 . 一般社団法人専門職高等教育質保証機構編 . 株式会社ぎょうせい , 2021, p.57-64.
2）内閣府 . “平成 30 年度年次経済財政報告　第 2 章人生 100 年時代の人材の働き方　第 2 節 3 社会人の学び直し（リカレント教育）とキャリア・アップ”. https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je18/h02-02.html#h020203,（参照日　2022-11-20）.
3）手島　恵監修 . 看護職の基本的責務－定義・概念／基本法／倫理－ . 日本看護協会出版会 , 2021.
4）日本看護協会 . 継続教育の基準 ver.2 , 公益社団法人日本看護協会 , 2012.4.
5）山口利子 , 塩月ぬい子 , 矢野紀子 , 徳永みなじ , 野村美千江 , 北川博之 . 愛媛県立医療技術短期大学看護学科卒業生の動向（第 2 報）－キャリア形成と本学への要望－ . 愛媛県立医療技術大学紀要 . 2007, vol.4, no.1, p.51-58.
6）岡安誠子 , 吾郷美奈恵 , 高橋恵美子 , 小田美紀子 . A 看護系大学卒業生におけるリカレント教育に対する学習ニーズ－ Institutional Research（IR）からの分析－ . 島根県立大学出雲キャンパス紀要 . 2020, vol.16, p. 9-16.
7）竹本由香理，桑名佳代子 , 原　玲子 , 高橋方子 . 看護系大学におけるキャリア開発支援に関する研究－卒業生の動向調査から－ . 北日本看護学会誌 . 2014, vol.16, no.2, p.23-31.

8）竹内幸江，安田貴恵子，有賀美恵子，酒井久美子．長野県看護大学看護学部卒業生の動向調査－1期性（1998年度卒業）から16期性（2013年度卒）までの調査－．長野県看護大学紀要．2017, vol.19, p.23-32.

9）塩澤百合子，板垣昭代，野尻由香，会沢紀子，鈴木達也，金子昌子．A大学看護学部卒業生の動向調査－就業状況を中心に－．獨協医科大学看護学部紀要．2019, vol.13, p.73-86.

10）岡田弘美，伊藤美千代，川原理香，蓮井貴子，平田美和，藤井美穂子，小澤知子．東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査　第1報　－職業コミットメントに焦点をあてて－．東京医療保健大学紀要．2017, vol.12, no.1, p.27-33.

11）川原理香，伊東美千子，岡田弘美，蓮井貴子，平田美和，藤井美穂子，小澤知子．東京医療保健大学医療保健学部看護学科卒業生の動向調査　第2報－卒業生が職務遂行をする中でキャリアを育む経験と求める支援－．東京医療保健大学紀要．2017, vol.12, no.1, p.43-51.

12）坂本すが．“新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会．新たな医療のあり方を踏まえた看護師の役割と働き方”日本看護協会，https://.www.mhlw.go.jp/file/05.Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000149783.pdf,（参照日　2022-11-26）.